

学会記事

【第12回総会】（2019年6月16日，筑波大学東京キャンパス134教室，出席者55名）

呉羽正昭庶務委員長の開会の辞のあと，川瀬正樹会員に議長，鈴木修斗庶務委員に書記を委嘱し，総会を開始した。

I. 会務報告について

松井圭介常任委員長より会員数（2019年5月30日現在，382名），第11回大会の開催，第24～26回例会の開催，機関誌「地理空間」第11巻1～3号の刊行，「地理空間」掲載論文のJ-Stage掲載，ニューズレター（第31～32号）の発行，ホームページおよびメーリングリスト（jags-ml）の運営，日本学術会議協力学術研究団体の認定（2013年9月24日），および2018年度学会賞について報告があった。会務報告は意義なく承認された。

[地理空間学会学会賞]

〈特別賞〉

特別賞：菅野 峰明

受賞対象：

菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行『地理的情報の分析手法』古今書院，1987

高橋伸夫・菅野峰明・村山祐司・伊藤 悟『新しい都市地理学』東洋書林，1997

矢ヶ崎典隆・斎藤 功・菅野峰明『アメリカ大平原－食糧基地の形成と持続性－』古今書院，2003

菅野峰明・佐野 充・谷内 達 編『日本の地誌5首都圏1 東京都・神奈川県』朝倉書店，2009

菅野峰明・久武哲也・正井泰夫 編『世界地名大辞典 北アメリカ I・II』朝倉書店，2013

山本正三・菅野峰明 訳『現代人文地理学の理論と実践－世界を読み解く地理学的思考』明石書店，2018

菅野峰明「アメリカ合衆国ジョージア州における円形の自治体境界」人文地理 29, 180-194. 1977

菅野峰明「合衆国における都市成長の転換：1930年代を中心に」アメリカ研究 1982(16), 54-71. 1982

菅野峰明「アメリカ合衆国における都市地理学の発達」地学雑誌 91, 354-368. 1982

菅野峰明・平井 誠「ハイプレーンズを中心都市ガーデンシティの機能と商業的土地利用」経済地理学年報46, 295-310. 2000

菅野峰明「サンベルト現象後のアメリカ合衆国南部」地理空間2, 79-98. 2009

特別賞：田林 明

受賞対象：

山本正三・北林吉弘・田林 明 編『日本の農村空間－変貌する日本農村の地域構造－』古今書院，1987

田林 明『農業水利の空間構造』大明堂，1990

- 田林 明『扇状地農村の変容と地域構造－富山県黒部川扇状地農村に関する地理学的研究』古今書院, 1991
- 高橋伸夫・田林 明・小野寺 淳・中川 正『文化地理学入門』東洋書林, 1995
- Sasaki, H., Saito, I. Tabayashi. A. and Morimoto, T. (ed.) *Geographical Perspectives on Sustainable Rural Systems: Proceedings of the Tsukuba International Conference on the Sustainability of Rural Systems*. Kaisei Publication, 1996
- 田林 明・菊地俊夫『持続的農村システムの地域的条件』農林統計協会, 2000
- 山本正三・内山幸久・犬井 正・田林 明・菊地俊夫・山本 充『自然環境と文化』大明堂, 2001
- 田林 明『北陸地方における農業の構造変容』農林統計協会, 2003
- 山本正三・谷内 達・菅野峰明・田林 明・奥野隆史 編『日本の地誌2 日本総論Ⅱ (人文・社会編)』朝倉書店, 2006
- 藤田佳久・田林 明 編『日本の地誌7 中部圏』朝倉書店, 2007
- 田林 明・菊地俊夫・松井圭介 編『日本農業の維持システム』農林統計出版, 2009
- 山本正三・田林 明・菊地俊夫 編『小農複合経営の地域的展開』二宮書店, 2012
- 田林 明 編『商品化する日本の農村空間』農林統計出版, 2013
- 田林 明 編『地域振興としての農村空間の商品化』農林統計出版, 2015

〈学術賞〉

学術賞：呉羽 正昭

受賞対象：

呉羽正昭『スキーリゾートの発展プロセス－日本とオーストリアの比較研究－』二宮書店, 2017-04

〈奨励賞〉

奨励賞：池田 真利子

受賞対象：

池田真利子「ジェントリフィケーションの過程からみた文化・消費の役割－旧西ベルリン市ノイケルン区ロイター街区を事例として－」地理学評論 91: 281-310, 2018-07

Ikeda Mariko. Temporary Use of Vacant Urban Spaces in Berlin: Three Case Studies in the Former Eastern Inner-city District Friedrichshain. *Geographical Review of Japan Series B* 90: 1-16, 2018-06

池田真利子・卯田卓矢・磯野 巧・杉本興運・太田 慧・小池拓矢・飯塚 遼「東京におけるナイトライフ観光の特性－夜間音楽観光資源としてのクラブ・ライブハウスに着目して－」地理空間 10(3): 149-164, 2018-02

池田真利子「世界におけるナイトライフ研究の動向と日本における研究の発展可能性」地理空間 10(2): 67-84, 2017-12

池田真利子「ドイツにおける文化創造産業と政策－連邦州別の政策策定経緯に着目して－」E-journal GEO 11(1): 164-185, 2016-09

奨励賞：坂本 優紀

受賞対象：

坂本優紀「住民による地域のサウンドスケープの発見と活用－長野県松川村におけるスズムシを活用した地域づくりを事例に－」地理学評論 91:229-248, 2018-05

坂本優紀「石川県金沢市における用水路が作り出すサウンドスケープ」地理科学 73:197-211, 2018-12

II. 2018年度決算報告・監査報告について

山下亜紀郎会計委員長より2018年度の一般会計および特別会計の決算案が提示され、その収支について田林 明会計監査、淡野明彦会計監査より適正であると承認したことが報告された。2018年度決算案は異議なく承認された。

III. 2019年度事業計画について

松井圭介常任委員長より2019年度事業計画について、「地理空間」第12巻1～3号の刊行、第12回大会の開催（2019年6月15～16日 筑波大学東京キャンパス）、設立10周年記念シンポジウムおよび祝賀会の開催、第13回大会の開催計画（2020年6月 場所未定）、例会の開催、学会賞や若手研究者助成による研究奨励、ニューズレターの発行（発表要旨特別号の発行を含む）、ホームページとメーリングリストの管理・運営が提案された。2019年度事業計画は異議なく承認された。

IV. 2019年度予算案について

山下亜紀郎会計委員長より2019年度予算案について、収入と支出に関する説明がなされた。2019年度予算案は異議なく承認された。

V. 役員・専門委員会の構成について

松井圭介常任委員長より役員および専門委員会（2018年7月1日～2020年6月30日）の構成員について提案がなされた。役員および専門委員会構成員は異議なく承認された。

会 長：菊地俊夫（首都大学東京）

会計監査：田林 明（筑波大名誉）、淡野明彦（奈良教育大名誉）

常任委員：松井圭介（常任委員長、筑波大）、呉羽正昭（庶務委員長、筑波大）、山下亜紀郎（会計委員長、筑波大）、森本健弘（集会委員長、筑波大）、堤 純（編集委員長、筑波大）

評 議 員：秋山千亜紀（筑波大）、井田仁康（筑波大）、伊藤徹哉（立正大）、小口千明（筑波大名誉）、小野寺 淳（茨城大）、加賀美雅弘（東京学芸大）、兼子 純（愛媛大）、川瀬正樹（広島修道大）、久保倫子（筑波大）、呉羽正昭（筑波大）、小林岳人（千葉高）、篠原秀一（秋田大）、須山 聡（駒澤大）、高橋重雄（青山学院大）、堤 純（筑波大）、中西僚太郎（筑波大）、中村周作（宮崎大）、中村理恵（前

橋高), 仁平尊明(北海道大), 根田克彦(奈良教育大), 平岡昭利(下関市大名誉), 藤永 豪(西南学院大), 松井圭介(筑波大), 丸山浩明(立教大), 村山祐司(筑波大名誉), 森本健弘(筑波大), 山下亜紀郎(筑波大), 山下清海(立正大), 山下宗利(佐賀大), 吉田道代(和歌山大), 若本啓子(宇都宮大)

〈専門委員会〉

庶務委員会：呉羽正昭(委員長), 秋山千亜紀(副委員長), 鈴木修斗, 中川紗智, 橋爪孝介, 吉沢 直

会計委員会：山下亜紀郎(委員長), 麻生紘平, 薄井 晴, 栗林 慶

集会委員会：森本健弘(委員長), 遠藤貴美子, 川添 航, 坂本優紀, 佐野浩彬, 矢ヶ崎大洋

編集委員会：堤 純(委員長), 須山 聡(副委員長), 橋本暁子(副委員長), 飯塚 遼, 井口 梓, 石井久生, 磯野 巧, 伊藤徹哉, 大石貴之, 片岡博美, 久木元美琴, 小島大輔, 佐藤大祐, 田中耕市, 淡野寧彦, 仁平尊明, 橋本 操, 林 琢也, 平井 誠, 福本 拓, 藤田和史, 本多広樹, 山本健太, 吉田道代

(書記)：岩井優祈, 小室 讓, 橋詰あゆみ, 平澤賢剛

学会賞選考委員会：(※2019年7月1日～2020年6月30日, 1年間)

村山祐司(委員長), 井田仁康, 岩間信之, 中村周作, 仁平尊明, 横山 智

Ⅵ. その他

堤 純編集委員長より, 学会誌「地理空間」の現在の編集状況, ならびに「地理空間」への積極的な投稿が呼びかけられた。

以上で議事を終了し, 川瀬議長による書記と議長の解任が行われた後, 呉羽庶務委員長の閉会の辞をもって, 総会は終了した。

【大会報告】

第12回(2019年6月15日～6月16日, 筑波大学東京キャンパス134講義室, 出席者70名)

・シンポジウム 地理学から「夜」を考えるー都市社会と自然環境における夜ー

オーガナイザー：池田真利子(筑波大)

池田真利子(筑波大)・坂本優紀(東京大)：「夜」から景観を考えるー見えない夜と感じる闇

太田 慧(高崎経済大)・飯塚 遼(帝京大)：日英におけるオルタナティブな飲酒の場の形成と夜間景観活用

金 延景(筑波大)・中川紗智(筑波大・院)：エスニックタウンのナイトスケープに関するー考察ー大久保コリアタウンと歌舞伎町の事例

卯田卓矢(名桜大)・磯野 巧(三重大)：沖縄のエコツーリズムにおける「夜」ー石垣島のアストロリズムに注目して

矢ヶ崎大洋・上原 明(首都大)：夜に対する人間の興味・恐怖と地域イメージー心霊スポットを巡る

ツアーの事例

杉本興運（首都大）：飲食店の集積と営業時間からみた東京の商業地特性の分析

・特別シンポジウム 地理学の将来と使命：Future geography への展望

オーガナイザー：松井圭介（筑波大）

秋山祐樹（東京大）：ビッグデータは何を語るか

永田成文（三重大）：地理総合必修化と今後の地理教育

由井義通（広島大）：地理学と海外研究

菊地俊夫（首都大・地理空間学会会長）：地理学とフィールドワークの世界

・ポスター発表

欒 雅蓉：深セン市における城中村の空間構造と形成要因

橋詰あゆみ（筑波大・院）：温泉地における新たなツーリズム形態－山形県の銀山温泉を事例に－

黄 璐（筑波大・院）：2013年四川雅安地震から見た中国南西部における農村地域の住宅構造分類と建物被害との関係

張 紅（筑波大・院）：景観保全にみる地域アイデンティティ

小原悠太（筑波大・院）：荒川下流域の河川空間利用の変遷

押見隆弘（筑波大・院）：地方都市内部における将来の人口空間構造と今後の課題－北信越の中小都市を例に－

小林飛文（筑波大・院）：ネットワーク分析を用いた生活関連施設が周辺人口に与える影響の分析－長野県東信地方を対象として－

浅見岳志（筑波大・院）：ルーラルツーリズムによる観光立村の取り組みと課題－群馬県川場村 道の駅「川場田園プラザ」を事例に－

岩井優祈（筑波大・院）・坂本優紀（東京大）・石坂 愛（元筑波大・院）・武智玖海人（日本交通公社・観光経済研究部）・周 安琪（元筑波大・院）・篠原弘樹（筑波大・院）・白 奕佳（元筑波大・院）・松井圭介（筑波大）：社会構造の変化が都市祭礼に与える影響－土浦八坂神社祇園祭における氏子の対応に着目して－

平根由也（筑波大・院）：移動可能距離からみた高齢者の生活環境－佐賀県佐賀市を事例に－

狩野仁慈（筑波大・院）：選択型コンジョイント分析による住民の水環境意識の解明とその形成要因

駒木野智寛（岩手大・非）：台北市建國假日玉市の地理学的研究

渡邊敬逸（愛媛大）：四国4県における無住化集落の立地と空間的特徴

・巡検

「変貌する東京都北部の都市機能」を予定していましたが、悪天候のため中止。

オーガナイザー：坂本優紀（筑波大）・岩井優祈・川添航・鈴木修斗（筑波大・院）

【地理空間学会会則】

地理空間学会ホームページをご参照ください。

URL : <http://jags.ne.jp/>

【編集委員会からのお知らせ】

2019年4月～2019年9月：未受理原稿および左記期間に投稿された5本の原稿について閲読結果をもとに検討し、これらのうち「リサーチ・ペーパー」2編、「地理資料」1編を受理した。

【編集委員会からの J-Stage 公開のお知らせ】

機関誌『地理空間』の Web 上での公開方法が変更になりました。「論説」や「リサーチ・ペーパー」などの論文はすべて J-Stage 上 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jags/-char/ja>) で公開することになりました。なお、次号の掲載までの「最新号」については、各論文の要旨のみ地理空間学会ホームページ上 (<http://jags.ne.jp/>) で公開し、最新号の刊行と同時に、前号の全文を J-Stage 上で公開いたします。なお、書評や学会記事、例会要旨などについては、引き続き、本学会ホームページ上でのみ公開いたします。

【次号以降の投稿について】

第13巻1号は、2020年6月20日の発行を予定しております。第13巻1号の原稿については随時受け付けておりますが、第13巻1号に掲載されるには、2020年3月末までに受理が出ている必要があります。内容は最新の論争から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員皆様の活発な寄稿をお待ちしております。

本学会の活動を幅広く認知してもらうために、会員の皆様の大学研究室や大学・高校の図書館におきまして、会誌『地理空間』の定期購読を是非ご検討のほどお願いいたします。ご購入いただける場合には、編集委員会 (geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp) までお知らせください。

【オンライン版（電子版）の3号の刊行について】

2016年度総会において、現行の年2号の紙媒体での印刷・発行に加え、オンライン版（電子版）の3号（年度末発行）を新たに発行することが決まり、すでに9巻3号（2017年3月）、10巻3号（2018年3月）、11巻3号（2019年3月）を刊行しました (<http://jags.ne.jp/archives/1473>)。現在、12巻3号を編集集中です。オンライン版（電子版）の3号の概要は以下の通りです。

- ・シンポジウム報告を含む特集論文は、各巻3号に掲載する。
- ・特集論文の企画代表者は学会員に限る。ただし、各論文の著者については、会員か非会員かは問わない。
- ・特集論文の企画は、毎年度9月末日までに企画代表者が事務局（編集委員会）へ申し出る。
- ・企画代表者は、編集委員会にゲストエディターとして加わり、当該特集論文の査読・編集に携わる。
- ・特集論文の掲載・発行にかかる実費相当額（2,000円程度／頁）は、企画代表者（または論文の著者）が負担する。
- ・各巻3号は、発行後速やかに J-Stage 上 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jags/-char/ja>) で公開する。

紙媒体の1, 2号は, これまで発行から半年後に学会 HP で公開していたが, これを変更し次号発行時に学会 HP で公開する。すなわち, 各巻1号は2号発行時, 2号は3号発行時に学会 HP で公開する。
・3号の印刷物(有償)を希望する会員は, 個別に事務局へ相談する。

【投稿規程 & 執筆要項】

地理空間学会ホームページをご参照ください。

URL : <http://jags.ne.jp/>

【新入会員】【新入会員】 (2019年5月15日から2019年11月14日)

後藤美沙季 (筑波大・学)

何 丹寧 (筑波大・院)

永田 康剛 (Apple Japan 合同会社)

松井 歩 (名古屋大・院)

(会員数 : 385 名, 2019年11月14日現在)